

ひょうたけいけ

桜台小 学校だより
令和4年3月22日
第59号



今週末で令和3年度が終了します。この1年間はコロナ禍の影響でさまざまな制限がある中での教育活動となりました。その中でも子どもたちは勉強や運動に励み、地域の方々の温かさやぬくもりにもふれ、心も身体も大きく成長したと思います。18日(金)には欠席者もなく6年生全員が出席し、厳かで感動的な卒業式を挙行することができました。6年生が卒業し、これからは5年生が最上級学年となります。令和4年度のスタートに向け、まずはこの1週間、自覚と責任を持ってしっかりと桜台小学校をリードして行ってほしいと思います。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



「第45回卒業証書授与式」を挙行了しました。

18日(金)、桜台小学校「第45回卒業証書授与式」を行いました。コロナ禍で規模縮小と時間短縮を図るため、出席者は卒業生とその保護者、教職員、来賓(教育委員会代表の方とPTA会長)に制限をしました。

拍手で迎えられた6年生が入場し卒業式が始まりました。卒業証書授与では、担任が名前を読み上げると、「はい」とはっきりとした返事をし、一人ひとりが順番に壇上に上がり、自分の将来に向けた夢やこれまでのお世話になった方々への感謝の気持ちを語りました。そしてゆっくりと私のもとへと進み、ゆったりとした所作で卒業証書を受け取り、タイミングを合わせて礼を交わしました。その後、保護者のもとへと進んで、受け取った卒業証書を手渡しました。終始おごそかな雰囲気の中で授与式が進みました。

私からは、はなむけの言葉として次の言葉を送りました。

今年度は、コロナ禍の影響で夏と冬にオリンピックが開催されるという珍しい1年となりました。冬のオリンピックでは、男子フィギュアの羽生結弦選手が前人未到の4回転半ジャンプに挑戦をしました。惜しくもジャンプは転倒してしまいましたが、守りに入らず挑戦する姿は、多くの人を魅了しました。

羽生選手から私たちが学ぶべきことは、決してあきらめずに努力をし、前に進もうとすることが、人として美しく大切なことということです。メダルには届きませんでしたでしたが、羽生選手の決してあきらめなかった姿が日本中、いや世界中に大きな感動を呼びました。

コロナ禍で世界中がいまだ見通しの持てない状況に陥っています。世界では紛争により、罪のない人々が国を追われ、他国へ避難したり、命を落としたりするような出来事も起こっています。しかし、暗い苦しい状況はいつまでも続きません。どんな苦難に陥ろうとも、努力を惜しまず、一生懸命やっていたら、皆さんの前にはいつかきっと明るい熱と光が差し、報われる日がやってくると思います。

皆さんの周りには、一緒に苦楽を共にしてきたなかまがいます。温かく成長を見守ってくださった地域の皆様、いつも傍で支えてくれる保護者の皆様がいます。「どんな時でも、あきらめずに夢や希望を持つこと」、皆さんのこれからの中学校生活に期待を込めて、この言葉を送ります。

卒業式に出席された皆様の温かい拍手に送られて、卒業生はこの桜台小学校を巣立っていきました。

桜台小学校見守り会・こどもをまもるまち 意見交換会より

19日(土)、桜地区市民センターにおいて「桜台小学校見守り会」と「桜小学校こどもをまもるまち」の皆様による意見交換会が行われました。その中で次のような意見がありましたので紹介します。

- スピードをあげて走る車がある。通学路であるという意識を持って通行してほしい。
- 大人が旗を持って渡していると、それに安心して横断歩道を渡っている子どもたちがいる。旗を信用せずに自分たちでも左右を確認して横断歩道を渡ってほしい。
- 車の運転手にも子どもたちが横断歩道を渡っているのがわかるように、横断歩道は子どもたち全員が手を挙げて渡るようにしてほしい。



※交通事故が起こらないように、ご家庭でも子どもへのご指導をよろしくお願いします。(文責 北住 昌文)